



# 決め手くん通信!



こんにちは。ボクは、県産品PR用キャラクター「決め手くん」。県や関係団体などが取り組んでいる県産品販売促進活動の情報を、毎月インフォメーションで紹介します。

## ◆「買って応援! 食べて満足! ひょう害りんご大即売会」を開催!

11月23日(日)~24日(月)の2日間、青森市中央卸売市場において「買って応援! 食べて満足! ひょう害りんご大即売会」と題し、中南、西北、東青、三八の農協、生産者など26団体・個人が出店して霜やひょう害を受けたりんご、加工品などを販売しました。

健全果と全く味が変わらないおいしいりんごが格安で販売されるとあって、会場は連日大勢のお客で賑わい、特に最終日の24日には、ほとんどの出展者が完売するなど、大盛況でした。

また、初日の23日(日)には青山副知事も参加し各生産者を激励したほか、ミスりんごによるPRや先着300名様への県産卵1パック(六個入り)のプレゼント、ひょう害果のPRキャラクター「ひょう太君」と「決め手くん」のコラボによるダンスショーなどのイベントも行われ、賑わいに花を添えました。



どれにしようかな。品定めをする来場者



「ひょう太君」と「決め手くん」もハイ、ポーズ

## ◆九州初上陸! 青森県フェア!

青森県産品の販路開拓・通常取引拡大を目指すため、10月30日(木)~11月3日(月)に、九州の大手量販店では初めてとなる「青森県フェア」を、イオン鹿児島ショッピングセンターを中心に、九州全域のジャスコなど48店舗で開催しました。

りんごや米、ながいもなどの野菜、ホタテなどの水産物、ジュース、日本酒、お菓子などの青森県産品のほか、観光パネル展コーナーを設けて、青森県全体のPRを行いました。

りんごやりんご関連商品に加え、焼酎や黒豚が有名な鹿児島県で日本酒や豚肉なども好評で、売り切れ商品が続出しました。

また、11月1日(土)には、三村知事が鹿児島県の消費者にPRするとともに、イオン九州(株)幹部に対して、今後の青森県産品の取扱を要請しました。

今後とも、県とイオングループとの連携を生かした販売促進活動を行い、青森県産品の販売拡大を目指して行くことにしています。



青森のほたてはおいしいよ~!



今後とも連携していくことを誓い合いました。

**決め手は、青森県産。**

## ◆首都圏大手量販店で青森県産品を売り込み!

首都圏大手量販店での「青森県フェア」が、11月12日(水)～17日(月)には東京都江東区にあるイトーヨーカドー木場店を中心に、11月22日(土)～25日(火)には東京都品川区にあるジャスコ品川シーサイド店を中心に、それぞれ行われました。

11月16日(日)、11月22日(土)には三村知事も参加し、お客様に青森県産品の良さをPRしました。フェアでは、今が“旬”の青森りんご、米、にんにくやながいも、ごぼうなどの野菜、ゼネラル・レクラークやスチューベンなどの果物、活ホタテなどのほか、りんごジュースやお菓子、焼き肉のたれなどを販売し、売り切れ商品が出るなど大盛況でした。

また、近年注目の「大間まぐろ」の解体ショーも行われ、大勢のお客様で店内は賑わいました。

さらに、県内の産地代表者ととも、大手量販店側に対する提案活動を行いました。

県では、今後も大手量販店でのこうしたフェアを通じて、青森県産品の通常取引拡大に向けた取り組みを進めて行くことにしています。



店内での活ホタテ殻剥き販売



大手量販店幹部への提案活動

## ◆“あなたのメニューを売り出しちゃう!”

### 青森県ふるさと食品メニュー開発コンペを開催

県産食材のPRを目的に昨年度まで実施していた「県産食材活用コンクール」をリニューアルし、本年度からは、県産農林水産品の消費拡大のため、産地直売所の飲食施設等で販売する「ふるさと食品メニュー」を開発することになりました。

県内の料理科・調理科を設置している高校・専門学校に呼びかけたところ、59作品の応募があり、書類審査(レシピ審査)を経て、7作品の提案者が11月22日(土)に青森市のアピオあおもりで開催された「ふるさと食品メニュー開発コンペ」最終審査(料理実習)に臨みました。

最終審査の結果、レストラン部門では東奥学園高校の中村麻衣さんの「マーボーほたて丼」、ファーストフード部門では東奥学園高校の島守誠さんの「じゃがいもとホタテのかりかり焼き」が最優秀賞となり、道の駅・浅虫温泉・ゆ～さ浅虫のメニューとして販売される予定です。



最終審査に臨んだ7作品の提案者



最優秀賞を受賞した島守誠さん

## ◆地域特産品ブランド化リーダー育成事業「決め手塾」無事終了!!

本県の地域特産品を売れる商品としていくためには、消費者や流通関係者に他産地より魅力的で特異性のある、満足度が高いブランド化を一層加速させる必要があります。

そのために必要な取組の先導役となる地域のリーダーを育成する平成20年度「決め手塾」を8月から6回にわたり実施し、11月13日(木)の最終回をもって終了しました。

「決め手塾」では、地域特産品の生産者や関係する農協、漁協、商工会、市町村職員により構成された9チーム42人が、これからの取組や抱負などを盛り込んだブランド化プランを発表し、今後、それぞれの地域特産品づくりに活かしていくこととしています。



各チームによる地域特産品ブランド化プランの発表



修了証書交付式

**決め手は、青森県産。**

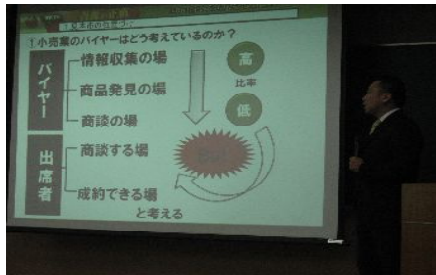
## ◆「青森の正直」展示商談会2009 in TOKYO 第1回出展者研修会開催

11月14日(金)に青森市で、来年2月17日(火)～18日(水)に首都圏において開催する「青森の正直」展示商談会2009 in TOKYOの第1回出展者研修会を開催しました。

この商談会は、青森県内で生産された一次産品や加工品を首都圏に売り込むことを目的に昨年度から開催しています。

研修会では、商人伝道師こと日本経営コンサルタント代表取締役の水元均先生による首都圏バイヤーへの青森県産品の売り込み方に関する講演や、食品表示の適正化、商品シートを活用した商談の進め方についての研修を行いました。

出展者の皆さんは、水元先生のインパクトのある講演内容に圧倒されつつも、首都圏への販路拡大のノウハウをしっかりと叩き込み、また、全出展商品の表示チェックを行うなど2月の展示商談会に向けて着々と準備を進めていくこととしています。



水元先生による講演



熱心に聞き入る出展事業者

## ◆県内外消費者評価会(井戸端会議)を開催!

消費者の意見を反映した商品づくりを推進するため、県内外において消費者評価会(井戸端会議)を11月19日(水)(青森市)及び11月24日(月)～25日(火)(東京都)に開催しました。

井戸端会議では、平成20年度県産品マーチャンダイジング支援事業費補助金対象商品及び「売れる可能性のある商品」から、紫黒米を使った麺、田子豚のみそ漬、鯖の冷燻など11品を対象に消費者モニターによる評価が行われました。

消費者モニターからは、商品の味をはじめ、値段、容量、パッケージ・デザインについて、評価する声から厳しい指摘まで様々な意見が出されました。また、新しい食べ方の提案などもあり、今後、この井戸端会議の結果を事業者へフィードバックしていく予定です。



消費者視点の商品評価が行われた井戸端会議



今回の井戸端会議の対象商品

**決め手は、青森県産。**